2012年 6月15日

会社名　　Ｊ.フロント リテイリング株式会社
コード番号　3086
代表者名　　代表取締役会長兼最高経営責任者
　　奥　田　　務
お問合せ先　経営計画事業統括部
　　グループ広報・ＩＲ担当
ＴＥＬ　　03-6895-0178

２０１２年５月度　Ｊ．フロント リテイリング　連結営業報告

１．セグメント別売上高（対前年増減率：%）

	５月度	３～５月度累計
百貨店事業	▲ 0.3 （ 0.8 ）	3.6 （ 4.5）
ｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄ事業	▲ 7.0	▲ 10.2
卸売事業	7.9	▲ 3.7
ｸﾚｼﾞｯﾄ事業	2.0	6.6
その他事業	32.0	15.6
連　結　合　計	▲ 1.7	1.6

（注）百貨店業合計の（　）内は博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く既存店ベース。

２．売上高概況

１）百貨店事業

・５月度の百貨店事業の売上高は、母の日商戦が盛り上がりを見せた婦人洋品が、帽子・パラソルなどを中心に売上を伸ばし、ラグジュアリーブランドや時計・宝飾品も好調に推移したことなどから、前年に比べて休日が▲２日減であったものの、大丸松坂屋百貨店合計では対前年1.2%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同 0.8%増となった。なお大丸松坂屋百貨店、百貨店事業ともに１４ヶ月連続で前年実績を上回った。

２）スーパーマーケット事業

・ピーコックストアは、首都圏店舗を中心に競合激化が続いたことに加え、閉鎖店舗（みさと店など計３店舗および１事業所）の影響もあり対前年 ▲7.0%減となった。地区別では、首都圏が対前年 ▲8.6%減、関西地区が同 ▲3.0%減、中部地区が同 ▲6.3%減であった。

３）その他

・卸売事業の大丸興業は、金属樹脂加工品、化学品などの好調により対前年7.9%増となった。
・クレジット事業のＪＦＲカードは、加盟店手数料収入が好調であったことなどにより対前年2.0%増となった。
・その他事業は、名古屋店、神戸店の改装工事などで大幅増となったＪ.フロント建装が牽引した。

お問合せ先　Ｊ.フロント リテイリング株式会社　グループ広報・ＩＲ担当
ＴＥＬ　０３－６８９５－０１７８
ＦＡＸ　０３－６６７４－７５６５

２０１２年４月度　百貨店事業　営業報告

１．売上高および入店客数（対前年増減率：%）

	５月度		３～５月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心斎橋店	2.2	9.1	0.7	5.5
大丸 梅田店	▲2.8	▲17.5	7.9	▲0.3
大丸 東京店	▲0.5	3.2	19.6	19.8
大丸 ららぽーと横浜店	▲10.4	▲7.5	1.2	2.8
大丸 浦和パルコ店	▲4.0	1.0	5.7	10.2
大丸 京都店	1.0	1.4	2.4	1.8
大丸 山科店	▲2.6	▲2.8	▲3.2	▲3.8
大丸 神戸店	10.6	13.7	5.3	6.4
大丸 新長田店	2.8	1.3	▲0.3	▲2.6
大丸 須磨店	0.7	▲1.2	0.1	▲2.4
大丸 芦屋店	▲2.8	▲6.2	▲1.3	▲6.9
大丸 札幌店	0.1	▲1.3	4.2	1.0
松坂屋 名古屋店	2.5	45.8	2.2	30.7
松坂屋 上野店	▲8.0	0.7	9.2	8.9
松坂屋 静岡店	3.0	9.5	3.4	12.4
松坂屋 銀座店	2.3	10.6	12.7	30.7
松坂屋 高槻店	4.6	▲1.7	0.7	▲1.4
松坂屋 豊田店	1.4	4.1	3.4	3.5
大丸松坂屋百貨店合計	1.2	1.1	4.9	6.4
博多大丸	0.2	▲1.4	3.1	0.4
下関大丸	▲5.2	▲9.6	▲0.8	▲5.6
高知大丸	▲3.2	▲5.6	0.0	3.6
百貨店事業合計	0.8	－	4.5	－

（注）博多大丸および百貨店事業合計の前年は、博多大丸長崎店(2011年7月31日営業終了)を除く。
前年に博多大丸長崎店を含めた5月度の博多大丸合計は対前年▲12.6%減、百貨店事業合計は同▲0.3%減。3～5月度累計は、博多大丸合計同▲7.3%減、百貨店事業合計同3.6%増。

２．大丸松坂屋百貨店　商品別売上高（対前年増減率：%）

	５月度	３～５月度累計
紳士服・洋品	0.5	5.9
婦人服・洋品	4.0	8.1
子供服・洋品	▲1.7	1.8
その他の衣料品	9.7	6.5
衣料品計	3.2	7.2
身 回 品	▲2.2	1.2
化粧品	6.6	6.7
美術･宝飾･貴金属	4.3	7.4
その他雑貨	▲20.3	▲11.6
雑 貨 計	3.2	5.3
家　具	▲14.2	▲12.1
家　電	28.0	20.4
その他の家庭用品	4.2	7.3
家庭用品計	0.2	2.6
生　鮮	▲0.6	▲0.2
菓　子	2.1	6.7
惣　菜	0.5	3.1
その他食料品	6.9	2.4
食料品計	2.0	3.5
食堂・喫茶	▲0.8	8.8
サービス	▲17.2	▲13.2
そ の 他	▲10.8	0.5
合　　計	1.2	4.9

３．売上高概況

婦人服・洋品は、ブラウス、ワンピース、帽子など初夏のファッションが活発に動き、ラグジュアリーブランドも全般に好調で、特に名古屋店は改装効果が寄与し大幅増となった。紳士服・洋品は、クールビズ需要によりジャケットやスラックスの動きがよかった。身回品は、アクセサリーやハンドバッグは前年を上回ったが、婦人靴が苦戦した。雑貨は、化粧品が売上を伸ばし、美術・宝飾は、宝石や高級時計などのお得意様向け催事が盛況であった。食料品は、神戸店が改装効果で３割増となるなど好調を持続した。